

	課題分析	授業改善策
国語	・学習意欲は感じられるが、漢字や百人一首などの知識の定着が不十分な生徒が多い。 ・根拠を明確にし、説得力のある文章を書く力を付ける必要がある。 ・他者の意見に対して疑問をもたないため、自分の意見に対する深まりがない。 ・文法問題への苦手意識がみられる。	・漢字の小テストを定期的に行い、インプットとアウトプットを習慣化させる。 ・説得力のある文章とそのポイントを提示した上で、他者の文章を読んだり、自分の意見を見直したりして、改善点を見出す授業を展開する。また、相手に伝える練習を重ねる。 ・これまでに学んだ文法の復習を授業内で定期的に行うとともに、補充教室など質問できる場を設ける。
社会	・熱心に授業に取り組む生徒が多く、発言が活発であるが、基礎的な知識の定着ができておらず、資料の読み取りや思考を伴う問題に対して苦手意識をもっている。 ・発言が多いものの、自分で探求しようとする姿があまり見られず、思考力・表現力が乏しい。 ・社会の学びが単なる暗記になっている生徒が一定数おり、学習内容と実生活を結び付けて考える意欲が低い。	・小テストや単元テストなどを実施し、学力の向上を把握しやすくする。 ・ICT機器を用いてデータ資料を使い、資料の分析力を養うとともにその意義も理解させる。 ・単元を貫く学習課題で、前後の単元とのつながりを意識させ、復習と予習を兼ねた課題を設定する。 ・普段の授業から「なぜ」を問う発問を行い、プリントに記入や発言させて、文章化・言語化させていく。 ・生徒の興味関心を引き出し、活動に参加したくなるような魅力のある授業実践ができるよう、教材研究を行う。 ・授業の導入で、生徒の知的好奇心を刺激できるように、生徒が答えを知らない状態から授業をし、自分で考え、調べようとする姿勢を引き出す。
数学	・各学年の1学期の成績では知識・技能の観点のAとBを合わせた割合が高く、基本的な計算問題を解く「技能」を持ち合わせている生徒は多い。しかし、式の形や答えが複雑になると正しい答えを導くことができない生徒が増える。 ・「思考・判断・表現」の問題になると、式を立てることができない生徒が増える。既習事項を結びつけることができていない。 ・短答式の問題の正答率に比べ、記述式の問題の正答率が低くなっている。	・どのように計算したのかというその過程を説明させ、他の生徒と理解できているのかお互いに確認する機会を設ける。 ・式を立てるときに、何に着目したのかを確認するなど、式を立てる考え方に触れ、思考力を養う。 ・発展クラスでは他の生徒に解き方を説明できるようにすること、基礎クラスでは立式できるようにすることを目指すなど、習熟度別少人数授業の特性を生かしていく。 ・普段から、「なぜこのようになるのか？」という問い掛けをしていくとともに、生徒に説明させることで、論理的な思考を身に付けさせていく。

理科	・基本的な知識や技能は身に付けているが、複数の情報を統合して答えを導き出したり、実験から考察したりする力が弱い。 ・地学、物理分野に対する苦手意識が高い。生物分野は比較的理解できている。 ・授業での学習内容が実生活にどのように役立っているかを感じる事が課題である。	・引き続き、基本的な知識・技能の定着に力を入れ、小テストやパフォーマンステストを行う。科学的な思考判断を行うために実験の考察を班で話し合ったり、レポートに書いたりする練習をする。 ・地学分野では、実験等を行うことが困難な分野のため ICT を活用し視覚的に理解しやすい授業を行う。物理分野では、公式や基本事項を理解するための問題演習を行うとともに、実験や考察を丁寧に行う。 ・各単元の最後に教科書や調べものの学習を通して、学習内容がどのように日常生活につながっているかを確認する時間をつくる授業を組み立てる。
音楽	・音楽的な知識を音楽活動に生かせていない点が課題である。 ・音楽の要素や歴史を理解しながら鑑賞し、自分の思いや意図を言葉で表現する力を身に付ける。 ・器楽の基本的な奏法を身につけ、楽器に触れる楽しさを味わう。 ・授業への関心・意欲は高いが、自分の意見を他の生徒の前で発表することが少ない。	・ワークを用いて、曲の中で用いられている音楽記号について確認する。 ・表現や鑑賞教材として、自らの思いや意図を表現するワークシートの作成やグループ、ペアでの意見交換の活動を取り入れる。 ・個別指導やグループ活動を多く取り入れながら、レベル別に複数の教材を用意し、楽器が苦手な生徒でも楽しみながら取り組むことのできる授業展開をする。 ・ICT 機器を活用し、発言しなくても掲示板やアンケートの形式で意見共有できる環境を整える。 ・鑑賞の感想を発表し合ったり、プリント学習の答え合わせで挙手性にしたりと、授業で積極的に発言をさせる。
美術	・スモールステップの学習により、丁寧に学習することができている。制作速度を上げさせたい。 ・忘れ物をする生徒がいる。 ・美的関心と美的意欲をもたせる必要がある。 ・既習学習を基に、自分なりの発想へと進むことができる制作を行わせる必要がある。 ・TP(タイムパフォーマンス)を意識する必要と SNS に対応した色の学習の精査する必要がある。	・授業用具を忘れないように。まとめの時間に次の持ち物と学習内容を説明し、クラスへ次の授業持ち物を記入した用紙を配布し授業前日に教科係からの持ち物連絡を行うことで三重に連絡する。また、TP のため、色相環の塗る色を補色関係に限定する。将来 SNS を作成する場合に備え、紙面とディスプレイの三原色 (CMY と RGB) の違いについて理解させ、使いこなせるようにする。

保健体育	・90%以上の生徒が保健体育の授業は楽しいと回答しており、体を動かすことが好きな生徒が多い。 ・体力テストの結果が全国平均より低い傾向にある項目が多い。 ・基礎的な動きの習得が不十分な（幼少期からの遊び経験が不足している）ため、ケガをしやすい。 ・基本的な技能の習得に時間がかかる。 ・授業の指示を言葉（耳）だけで理解することが難しい。 ・自分の言葉でわかりやすく相手に伝えることが苦手である。 ・試合において、ルールを意識してプレイしたり、作戦を考えて実践したり、協力してゲームを展開することが苦手である。	・多様な運動を取り入れたり、ケガや事故防止の観点を説明したりすることで、ケガや事故が起きない環境を設定し、安全面の意識を高める。 ・動きのコツやポイントの説明を丁寧に行う。 ・目標、動き方、流れなど、視覚的に理解できるように ICT 機器やホワイトボードを活用する。 ・習熟度別に課題やグループを設定する。 ・ルールやゲームの目的、具体的な戦術例や動き方の例を提示し、イメージしやすいようにする。 ・話し合い、チームで練習する時間を確保する。
技術	・構想図の学習を苦手とする生徒が見られる。完成図を思い描けずに学習が進めない状態になる。 ・学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、作業を丁寧に行うよう指導していく必要がある。 ・小学校の図工授業との違いについて気付かせ、目的に適した工具の選択や使用について学習させる必要がある。 ・「D 情報の技術」等では、授業内容を理解していても応用して実習課題を解決するための創造力が不足している。 ・技術科の授業だけではなく、学習内容に関連する他教科の学習を応用する意識や能力が不足している。 ・タブレットの基本的な操作方法是身に付いているが、自分で考えて応用する操作には習熟の差がある。	・実習での作業目標・内容を伝え、作業がうまく進められない生徒には個別的に指導を行う。 ・学習形態を工夫して、協力し教え合う態度を育てる。 ・作業の進度に違いが出ないように製作進度を調整する。丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまづく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・ICT 機器やタブレット端末を活用し、視覚的な理解を深め、興味・関心が高まるような動機付けを行う。 ・生徒全員が達成感を得られるような作品になるよう、仕上げまでアドバイスを行う。 ・積極的に発言する、自分の考えを表現・発表する姿勢・環境を作る。 ・振り返りのレポート等の提出物チェック、実技テストも実施する。

家庭	・自分の生活を振り返ったり、考えたりすることが苦手な生徒が多い。 ・発言や挙手する生徒の固定化。 ・積極的に授業に参加しているが、知識の定着に課題がある。 ・被服実習ではミシンや手縫いを苦手とする生徒が多いため、進度に大きな差ができてしまう。	・机間指導を行い、声掛けや助言をしながら生徒の考えを引き出したり、一緒に考えを膨らませたりしていく。 ・周りの生徒と意見交換・共有することで自分の考えに自信をもたせる。机間指導も行い、書いた意見に対して声掛けをしていき、発言しやすい雰囲気を作っていく。 ・苦手な生徒に対しては、基礎基本の定着を図るために個別指導、得意な生徒にはリトルティーチャーとして他の生徒に助言を行いながら、進度に大きな差が出ないようにする。
外国語（英語）	・基本的な知識はあるが、既習文を使って文章をつくることは苦手な生徒が多い。英作文では、自己表現する部分を書くのに時間がかかっている。 ・あるテーマに沿ってスピーチを書く時に、内容は色々と考えられるが、正しい文法を使って、文章を書くことが困難である。 ・スピーキングテストでは9割の生徒が good となり、簡単な会話はスムーズにできているが、Part D(自分の意見を述べる)の部分が、正答率が低く、掘り下げた内容のやり取りを続けることは難しい。	・多くの基本文を提示して、練習を十分にしてからオリジナルの文を書かせる。 ・原稿の添削をし、正しい文の原稿をもう一度書かせる。 ・短い会話をスムーズに行えたら、徐々に会話のやり取りの時間を長くし、お互いに質問をしながら会話を深める練習をする。 ・教科書の本文の絵を見ながらキーワードを使って絵を説明するリテリングの活動を行なう。 ・教科書の音読を授業だけでなく自宅でもタブレットなど音声を使って定期的に行なう。